

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2002-265343  
(P2002-265343A)

(43) 公開日 平成14年9月18日 (2002.9.18)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K	7/48	A 6 1 K	4 C 0 8 3
	7/00	7/00	K
			X

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 32 頁)

(21) 出願番号 特願2001-62729(P2001-62729)

(22) 出願日 平成13年3月7日 (2001.3.7)

(71) 出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社  
岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(72) 発明者 大原 光晴

岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1 一丸ファルコス株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 化粧料組成物

(57) 【要約】

【課題】皮膚に対しては健全化と美白効果に優れた新規で安全な化粧料組成物を提供する。

【解決手段】マメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物とする。

【効果】優れたチロシナーゼ活性抑制作用を有し、シミ、ソバカスを改善し、肌の色を白く改善すること。又、肌にツヤ・張りも与えることができる。

# 【特許請求の範囲】

【請求項1】マメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【請求項2】マメ科植物が、アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビユ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッシュウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンから選ばれるマメ科植物の1種又は2種以上であることを特徴とする請求項1記載の化粧料組成物。

【請求項3】乳酸菌類が、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有胞子桿菌科有胞子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属から選ばれる乳酸菌類の1種又は2種以上であることを特徴とする請求項1記載の化粧料組成物。

# 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚に対して健全化と美白効果に優れる化粧料組成物を提供するものである。

## 【0002】

【従来の技術】人の皮膚の色は、表皮中のメラニン量、毛細血管の血流量、食物由来の色素（カロチン）、角質層の厚さなどが影響しているが、中でもメラニン色素は最も重要な因子と報告されている。いわゆる肝斑（シミ）、雀卵斑（ソバカス）、日光による色素沈着は、皮膚内に存在する色素細胞の活性化によりメラニン色素の生成が著しく亢進したものであり、中高年齢層や女性にとっては大きな悩みの一つとなっている。

【0003】このメラニン色素は表皮基底層及び毛根部、外毛根鞘に存在する色素細胞（メラノサイト）内の小器官であるメラノソームで生成される。メラニン色素の生成過程は、色素細胞（メラノサイト）内でチロシンにチロシナーゼが活性作用して、チロシンが酸化され、ドーパ、ドーパキノンに変換、更に自動酸化しドーパクロム、5,6-ジヒドロキシインドールを経て重合し、最終的にメラニン色素になる。かくして生成されたメラニンは、色素細胞（メラノサイト）の樹枝状突起から基底細胞に分泌され、基底細胞が分裂し、有棘細胞となると共に上昇し角質層に達する。さらにこのメラニンに紫外線が照射されると、既存のメラニンが酸化され、一時的に黒くなることも報告されている。

【0004】肌の肝斑（シミ）、雀卵斑（ソバカス）や色素沈着による色黒を防止又は改善する方法として多くの報告がなされているが、中でもメラニンの生成過程を阻害すること、酸化によるメラニンの黒化を防止すること、或いは既に生成されたメラニンを淡色化させること

が効果的であるとされ、これに基づき従来から種々の美白成分の提案がされてきた。例えば、アルブチン、コウジ酸又はその誘導体、アスコルビン酸又はその誘導体、トコフェロール又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、ハイドロキノンモノベンジルエーテル、プラセンターエキス、シルク抽出物や植物エキス（アルニカ、アルテア、アロエ、オウゴン、エンメイソウ、カミツレ、甘草、クチナシ、ゲンノショウコ、シコン、ショウマ、シラカバ、センキュウ、ゲンノショウコ、サイコ、山茶花、当帰、トウキンセンカ、ニワトコ、紅花、ニンニク、ハトムギ、レイシ、ログウッド）などが知られている。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記した美白成分については、処方系中での安定性や溶解性が悪く、凝り分解による異臭、着色が生じ、又、生体レベルにおける効果も充分ではなく、更に皮膚にかぶれを起こすなど安全性の面でも問題があり、満足すべきものではなかった。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】こうした事情に鑑み、本発明者らは、マメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物が、チロシナーゼ活性を有意に抑え、美白効果を有することを確認した。そして、肌のシミ、ソバカスを改善、肌の色を白く改善すること。又、肌にツヤ・張りも与えることができる安全性の高い化粧料組成物を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0007】更には、マメ科植物が、アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビユ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッシュウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンから選ばれるマメ科植物の1種又は2種以上であることを特徴とするマメ科植物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物を提供する。

【0008】更には、乳酸菌類が、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有胞子桿菌科有胞子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属から選ばれる乳酸菌類の1種又は2種以上であることを特徴とするマメ科植物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物を提供する。

## 【0009】

【発明の実施の形態】マメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物とする。

【0010】本発明で使用するマメ科植物とは、アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビユ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカ

チ、ナタマメ、ハッシュウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピン等である。何れも、花、花穂、果皮、果実、莖、葉、枝、枝葉、幹、樹皮、根莖、根皮、根、種子、莢又は全草を用いることができるが、この中でも特に種子が好ましい。食品または生薬として入手可能なものはそれを利用してよい。

【0011】「アズキ」とは、マメ科(Leguminosae)、ササゲ属(*Vigna*)の植物：アズキ(小豆、赤小豆) *Vigna angularis* Ohwi et Ohashi(=*Vigna angularis* var. *angularis*=*Phaseolus angularis* Wight=*Azuki* *angularis* Ohwi)であるが、その他、同属種のコチョウインゲン(*Vigna adenantha*)、ヤブツルアズキ(*Vigna angularis* var. *nipponensis*)、ハマアズキ(*Vigna marina*)、ヒナアズキ(*Vigna minima* var. *minor*)、ケツルアズキ(*Vigna mungo*)、ヒメツルアズキ(*Vigna nakahimae*)、ヤエナリ(リョクトウ、リョクズ)(*Vigna radiata*)、オオヤブツルアズキ(*Vigna reflexo-pilosa*)、バンバラマメ(*Vigna subterranea*)、ツルアズキ(カニメ)(*Vigna umbellata*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0012】「インゲンマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、インゲンマメ属(*Phaseolus*)の植物：インゲンマメ(ゴガツササゲ、隠元豆、菜豆) *Phaseolus vulgaris*であるが、その他、同属種のベニバナインゲン(ハナマメ)(*Phaseolus coccineus*)、ライマメ(アオイマメ)(*Phaseolus lunatus*=*Phaseolus limensis*=*Phaseolus lunatus* var. *macrocarpus*)などを用いることもできる。また品種としてマスターピース、紅金時、大正金時、紅紋系、紅紋鶏、虎豆、紅紋り系、馬系4号、大手芒、白丸鶏、貝殻豆、大福、黒大粒、黒金時等有るが、何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0013】「エンジュ」とは、マメ科(Leguminosae)、クララ属(*Sophora*)の植物：エンジュ *Sophora japonica* L.(=*Styphnolobium japonicum* Schott.)であるが、その他、同属種のクララ(*Sophora flavescens*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0014】「エンドウ」とは、マメ科(Leguminosae)、エンドウ属(*Pisum*)の植物：エンドウ *Pisum sativum*であるが、その他、同属種のアカエンドウ(*Pisum sativum* subsp. *arvensis*)、サヤエンドウ(*Pisum sativum* subsp. *sativum*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0015】「オランダビユ」とは、マメ科(Leguminosae)、オランダビユ属(*Psoralea*)の植物：オランダビユ(補骨脂) *Psoralea corylifolia* L.であるが、その

他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0016】「キマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、キマメ属(*Cajanus*)の植物：キマメ *Cajanus cajan*であるが、その他、同属種のカヤナス・カヤニフォリウス(*Cajanus cajanifolius*)、ビロードヒメクズ(*Cajanus scarabaeoides*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0017】「キンキジュ」とは、マメ科(Leguminosae)、キンキジュ属(*Pithecellobium*)の植物：キンキジュ *Pithecellobium dulce*であるが、その他、同属種のジリング(*Pithecellobium lobata*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0018】「クズ」とは、マメ科(Leguminosae)、クズ属(*Pueraria*)の植物：クズ *Pueraria lobata*であるが、その他、同属種のタイワンクズ(*Pueraria montana*)、シナクズ(*Pueraria thomsonii*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0019】「ゲンゲ」とは、マメ科(Leguminosae)、ゲンゲ属(*Astragalus*)の植物：ゲンゲ(レンゲソウ) *Astragalus sinicus* L.であるが、その他、同属種のムラサキモメンヅル(*Astragalus adsurgens* Pall.)、*Astragalus chinensis* L.、サエンシ(*Astragalus complanatus* R.Br.)、トラガントゴムノキ(*Astragalus gummifer*)、タイツリオウギ(*Astragalus membranaceus*)、アストラガルス・ニウァリス(*Astragalus nivalis*)、モメンヅル(*Astragalus reflexistipulus*)などを用いることもできる。また何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0020】「コエビスグサ」とは、マメ科(Leguminosae)、カワラケツメイ属(*Cassia*)の植物：コエビスグサ(エビスグサ) *Cassia tora* L.であるが、その他、同属種のエビスグサ(*Cassia obtusifolia* L.)、ハブソウ(*Cassia occidentalis* L.)、ホソバハブソウ(*Cassia sophora* L.)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0021】「コロハ」とは、マメ科(Leguminosae)、レイリョウコウ属(*Trigonella*)の植物：コロハ(フェヌグreek、胡芦巴) *Trigonella foenum-graecum* L.であるが、その他、同属種のレイリョウコウ(*Trigonella caerulea*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0022】「シカクマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、シカクマメ属(*Psophocarpus*)の植物：シカクマメ *P*

sophocarpus tetragonolobus)であるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0023】「ジュウロクササゲ」とは、マメ科(Leguminosae)、ササゲ属(Vigna)の植物：ジュウロクササゲ *Vigna unguiculata* subsp. *sesquipedalis*であるが、その他、同属種のササゲ (*Vigna unguiculata*)、ハタササゲ (*Vigna unguiculata* subsp. *cylindrica*=*V. catjang*)、ササゲ (*Vigna unguiculata* var. *unguiculata*)、アカササゲ (*Vigna vexillata* var. *tsusimensis*)、サクヤアカササゲ (*Vigna vexillata* var. *vexillata*)を用いることもできる。また品種としてカウピー、中黒、三尺ササゲ、小豆ササゲ、金時ササゲ、奴ササゲ等有るが、何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0024】「ソラマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ソラマメ属(Vicia)の植物：ソラマメ *Vicia faba*であるが、その他、同属種のヤハズエンドウ (*Vicia angustifolia*)、スズメノエンドウ (*Vicia hirsuta*)、カスマグサ (*Vicia tetrasperma*)を用いることもできる。品種として大粒種、中粒種、小粒種があり、何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0025】「タマリンド」とは、マメ科(Leguminosae)、タマリンド属(Tamarindus)の植物：タマリンド *Tamarindus indica*であるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0026】「タンキリマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、タンキリマメ属(Rhynchosia)の植物：タンキリマメ (ロザリー・ビーン) *Rhynchosia volubilis*であるが、その他、同属種のオオバタンキリマメ (トキリマメ) (*Rhynchosia acuminatifolia*)、マルバヒメノアズキ (*Rhynchosia minima* f. *nuda*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0027】「ツルマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ダイズ属(Glycine)の植物：ツルマメ *Glycine ussuriensis*(=*Glycine soja*)であるが、その他、同属種のナガミツルマメ (*Glycine dolichocarpa*)、ダイズ (*Glycine max*)、ボウコツルマメ (*Glycine tabacina*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0028】「トウサイカチ」とは、マメ科(Leguminosae)、サイカチ属(Gleditsia)の植物：トウサイカチ *Gleditsia sinensis* Lam.であるが、その他、同属種のサイカチ (*Gleditsia japonica* Miq.)、ホソミサイカチ (*Gleditsia officinalis* Hemsley)、アメリカサイカチ (*Gleditsia triacanthos*)などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも

のも使用することができる。

【0029】「ナタマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ナタマメ属(Canavalia)の植物：ナタマメ *Canavalia gladiata*であるが、その他、同属種のタカナタマメ (*Canavalia cathartica*)、タチナタマメ (*Canavalia ensiformis*)、シロナタマメ (*Canavalia gladiata* var. *alba*)、ハマナタマメ (*Canavalia maritima*(=*Canavalia lineata*))、ナガミハマナタマメ (*Canavalia rosea*)、*Canavalia plagiosperma*、*Canavalia regale*などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0030】「ハッシュウマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ハッシュウマメ (トビカズラ) 属(*Mucuna*)の植物：ハッシュウマメ *Mucuna pruriens* var. *utilis*(=*Mucuna hassjoo*=*Stizolobium hassjoo*)であるが、その他、同属種のワニグチモダマ (*Mucuna gigantea*)、ウジルカンダ (*Mucuna macrocarpa*)、カショウクズマメ (*Mucuna membranacea*)、ムクナ・プルリエンス・プルリエンス (*Mucuna pruriens* var. *pruriens*)、トビカズラ (*Mucuna sempervirens*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0031】「ヒヨコマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ヒヨコマメ属(Cicer)の植物：ヒヨコマメ *Cicer arietinum*であるが、その他、同属種を用いることもできる。品種として小粒系、中粒系、大粒系があり、何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0032】「ヒラマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、ヒラマメ属(Lens)の植物：ヒラマメ (レンズマメ) *Lens esculenta*(=*Lens culinaris*)であるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0033】「フジマメ」とは、マメ科(Leguminosae)、フジマメ属(Lablab)の植物：フジマメ (インゲンマメ) *Lablab purpurea*(=*Lablab vulgaris* Savi. =*Dolichos lablab* L.)であるが、その他、同属種シロフジマメ (*Lablab purpurea* subsp. *bengalensis*)、オーストラリアン・ペア (*Lablab purpurea* subsp. *liguosus*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0034】「ラッカセイ」とは、マメ科(Leguminosae)、ナンキンマメ属(Arachis)の植物：ラッカセイ (ナンキンマメ) *Arachis hypogaea*(=*Arachis hypogaea* ssp. *hypogaea*)であるが、その他、同属種アラキス・ヒポガエア・ファスティギアタ (*Arachis hypogaea* ssp. *Fastigiata*)を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0035】「シロバナルーピン」とは、マメ科(Leguminosae)、ハウチワマメ属(Lupinus)の植物：シロバナルーピン *Lupinus albus* であるが、その他、同属種エジプトルーピン (*Lupinus termis*)、*Lupinus mutabilis* などを用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0036】尚、本発明で使用する「乳酸菌類」とは、乳酸桿菌科乳酸桿菌属、放線菌科ビフィダス菌属、有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属、レンサ球菌科ペディオコッカス属、レンサ球菌属、ロイコノストック属等の乳酸菌類である。

【0037】「乳酸桿菌科乳酸桿菌属菌類」とは、乳酸桿菌科(Lactobacillaceae)、乳酸桿菌属 (*Lactobacillus*) の菌類：*Lactobacillus acidophilus*、*Lactobacillus brevis*、*Lactobacillus bulgaricus*、*Lactobacillus casei*、*Lactobacillus delbruckii*、*Lactobacillus fermenti*、*Lactobacillus helveticus*、*Lactobacillus jugurti*、*Lactobacillus lactis*、*Lactobacillus plantarum* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0038】「放線菌科ビフィダス菌属菌類」とは、放線菌科(Actinomycetaceae)、ビフィダス菌属 (*Bifidobacterium*) の菌類：*Bifidobacterium adolescentis*、*Bifidobacterium bifidum*、*Bifidobacterium breve*、*Bifidobacterium infantis*、*Bifidobacterium lactentis*、*Bifidobacterium liberorum*、*Bifidobacterium longum*、*Bifidobacterium parvulum*、*Bifidobacterium pseudolongum*、*Bifidobacterium thermophilum* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0039】「有孢子桿菌科有孢子乳酸桿菌属菌類」とは、有孢子桿菌科、有孢子乳酸桿菌属 (*Sporolactobacillus*) の菌類：*Sporolactobacillus inulinus* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0040】「レンサ球菌科ペディオコッカス属菌類」とは、レンサ球菌科(*Streptococcaceae*)、ペディオコッカス属 (*Pediococcus*) の菌類：*Pediococcus acidilactis*、*Pediococcus cerevisiae*、*Pediococcus halophilus*、*Pediococcus pentosaceus* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0041】「レンサ球菌科レンサ球菌属菌類」とは、レンサ球菌科(*Streptococcaceae*)、レンサ球菌属 (*Streptococcus*) の菌類：*Streptococcus cremoris*、*Streptococcus diacetylactis*、*Streptococcus faecalis*、*Streptococcus faecium*、*Streptococcus lactis*、*Streptococcus*

*ccus lactis* sub-sp. *diacetylactis*、*Streptococcus thermophilus*、*Streptococcus uberis* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0042】「レンサ球菌科ロイコノストック属菌類」とは、レンサ球菌科(*Streptococcaceae*)、ロイコノストック属 (*Leuconostoc*) の菌類：*Leuconostoc citrovorum*、*Leuconostoc cremoris*、*Leuconostoc dextranicum*、*Leuconostoc mesenteroides* などを用いるが、その他、同属種を用いることもできる。何れの種類のものも、またこれら任意の交配種のものも使用することができる。

【0043】尚、本発明で使用するマメ科植物抽出物とは、各々の植物体の各種部位(花、花穂、果皮、果実、茎、葉、枝、枝葉、幹、樹皮、根茎、根皮、根、種子、莢又は全草など)をそのまま又は粉碎後搾取したもの。又は、そのまま或いは粉碎後、溶媒で抽出したものである。

【0044】抽出溶媒としては、水、アルコール類(例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、又はプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコール)、アセトンなどのケトン類、ジエチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエステルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独又は2種類以上の混液を任意に組み合わせ使用することができ、又、各々の溶媒抽出物が組み合わせられた状態でも使用できる。

【0045】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は汙過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態で行うことができるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色等の精製処理を加えても良く、脱臭・脱色等の精製処理手段としては、活性炭カラム等を用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。また、工程に予め溶媒による吸湿(吸水)工程や濃縮または乾燥工程を加えても、滅菌工程を加えても良い。

【0046】乳酸菌類接種による醗酵は特に制限されるものはないが、各乳酸菌類の至適条件、至適温度、至適pH、至適時間にて行う。このとき、糖をはじめとする各種の栄養素やpH調整のための酸、アルカリ等を適宜加えても良い。醗酵は、混合醗酵でも、連続醗酵でも良い。醗酵後は汙過し、必要であれば、滅菌処理、pH調整、イオン交換樹脂、活性炭カラム、透析膜などを利用し、脱臭、脱色等の精製処理を行う。また、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の有機溶媒、又はこれらの任意の混液を添加することもできる。

このようにして得た抽出液はそのままでも利用可能であるが、濃縮、乾燥してペースト状、粉末状としてから利用してもよい。

【0047】又、マメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物は応用する化粧料組成物の剤型・形態により乾燥、濃縮又は希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0048】本発明のマメ科植物抽出物の乳酸菌類醗酵物を含有する化粧料組成物は、その含有量としては特に規定するものではないが、種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なるが、通常、製剤全量中、固形分換算して、0.0001重量%以上（以下、%で表わす）、好ましくは0.1～50.0%が良い。尚、含有量が0.0001%より少ないと効果が充分期待できない。又、浴用剤の場合では、200～300Lの浴湯に投じて同程度の濃度になるように処方方を考慮すれば良い。

【0049】本発明による化粧料組成物とは、1)局所又は全身用の皮膚洗浄料又は皮膚化粧料類、2)頭皮・頭髮に適用する薬用及び／又は化粧用の製剤類、3)浴湯に投じて使用する浴用剤、4)人体用の消臭・防臭剤、5)皮膚貼付用シート、化粧用シート、化粧用コットン、衛生用品、衛生綿類、ウェットティッシュなどを意味し、アンブル、カプセル、粉末（パウダー）、顆粒、固形、溶液、ゲル、気泡、エマルジョン、シート、ミスト、スプレー剤など利用上の適当な形態とすることができる。

【0050】具体的には、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ジェル、ローション、オイル、パック、ミスト、顔面用化粧用シートなどの基礎化粧料、ひげ剃り用剤、洗顔料、皮膚洗浄料、シャンプー、リンス、ヘアトリートメント、整髪料、パーマ剤、ヘアトリック、染毛料、育毛・養毛料などの頭髮化粧料、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメイクアップ化粧料、香水類、皮膚用消臭剤、制汗剤、入浴剤等が上げられる。

【0051】本発明の化粧料組成物には、必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択し添加することができる。尚、製剤中への含有量は、特に規定しないが、通常、0.0001～50%が好ましい。

#### 【0052】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、オレンジラファ油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、クイナッツ油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシク油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、パーム油、パーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂、スクワレン、スクワラン、アリスταν又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）等。

#### 【0053】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス等。

#### 【0054】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックス等。

#### 【0055】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ペヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸等の天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸等の合成脂肪酸。

#### 【0056】(5)アルコール類

エタノール、イソピロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、フェノキシエタノール等の天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノール等の合成アルコール。

#### 【0057】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ペンチルグリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、トレイトール、アラビトール、キシリトール、リビトール、ガラクトール、ソルビトール、マンニトール、ラクチトール、マルチトール等。

#### 【0058】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコール等。

#### 【0059】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等。

【0060】(9)ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トレハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキシサイド等のアルキレン(C2~C4)オキシサイドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキシサイドやポリプロピレンオキシサイド等のポリアルキレンオキシサイド又はその架橋重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミン等。

【0061】(10)界面活性剤  
アニオン界面活性剤(アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩)、カチオン界面活性剤(アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩)、両性界面活性剤:カルボン酸型両性界面活性剤(アミノ型、ペタイン型)、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤(エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤)、その他の界面活性剤(天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤)等。

【0062】(11)各種ビタミン類  
ビタミンA群:レチノール、レチナール(ビタミンA1)、デヒドロレチナール(ビタミンA2)、カロチン、リコピン(プロビタミンA)、ビタミンB群:チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩(ビタミンB1)、リボフラビン(ビタミンB2)、ピリドキシン(ビタミンB6)、シアノコバラミン(ビタミンB12)、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群:ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群:エルゴカルシフェロール(ビタミンD2)、コレカルシフェロール(ビタミンD3)、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群:ビタミンE又

はその誘導体、ユビキノノール類、ビタミンK群:フィトナジオン(ビタミンK1)、メナキノノール(ビタミンK2)、メナジオン(ビタミンK3)、メナジオール(ビタミンK4)、その他、必須脂肪酸(ビタミンF)、カルニチン、フェルラ酸、 $\gamma$ -オリザノール、オロト酸、ビタミンP類(ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン)、ビタミンU等。

【0063】(12)各種アミノ酸類  
バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オルニチン、ヒスチジン等や、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体等。

【0064】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工(例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色等を任意に選択、組合わせた処理)を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0065】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、メタノール、エタノール、プロピルアルコール、イソプロピルアルコール、ブタノール、イソブタノール等の低級アルコール或いは含水低級アルコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン等の多価アルコール或いは含水多価アルコール、アセトン、酢酸エチル等の各種有機溶媒の中から選ばれる1種若しくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、あるいは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。

【0066】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活(細胞老化防止)、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果等の美容的効果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝等の効果も期待できる。

【0067】又、飲食品においては、栄養補給、疲労回復、強壮、細胞賦活(細胞老化防止)等の健身並びに美



容的効果をはじめ、味覚の改善、色調や芳香、光沢の付与、安定化、増粘、防腐等の目的で使用する事ができる。更にこの他にも、これまでに知られている各原料素材の様々な美容的、薬剤的効果を期待し、これらを組み合わせることによって目的とする効果の増進を図ったり、或いは多機能的な効果を期待した製品とすることも可能である。

【0068】原料とする具体的な植物(生薬)としては、例えば、アーモンド(へん桃)、アイ(藍葉)、アオカズラ(清風藤)、アオキ(青木)、アオギリ又はケナシアオギリ(梧桐)、アオツヅラフジ(木防己)、アオテンマ、アカシア、アカショウマ(赤升麻)、アカスグリ「果実」、アカツメクサ、アカブドウ、アカミノキ(ログウッド)、アカメガシワ(赤芽柏)、アカミノアカネ又はセイヨウアカネ又はアカネ(茜草根)、アカヤジオウ又はジオウ(地黄)、アギ(阿魏)、アキカラマツ、アキニレ(榔榆皮)、アグアイー・グアスー、アグアヘ(オオミテングヤシ)、アケビ(木通)、アサ(麻子仁)、マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子)、アジサイ(紫陽花)、アシタバ(明日葉)、アズキ(赤小豆)、アスナロ、アセロラ、アセンヤク(阿仙薬)、アチラ(ショクヨウカンナ)、アニス、アビウ、アビウラーナ、アブラナ、アベマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ(甘茶)、アマチャヅル、アマドコロ(玉竹)、アマナ(光慈姑)、アマランサス(ヒユ、ハゲイトウ、ヒモゲイトウ、センニンコク、スギモリゲイトウ、ホソアオゲイトウ、アオゲイトウ、ハリビユ、アオスズラン、アマラントウス・ヒボコンドリアクス)、アミガサユリ又はバイモ(貝母)、アリストロメリア(ユリズイセン)、アルカナ(アルカンナ)、アルガローボ(キャベ)、アルテア、アルニカ、アルピニア又はカツマダイ(ソウズク)、アロエ(蘆薈)、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ(杏仁)、アンソッコウ(安息香)、イエローサボテ、イガコウゾリナ(地胆頭)、イカリソウ又はヤチマタイカリソウ(インヨウカク)、イグサ(灯心草)、イタドリ(虎杖根)、イチイ(一位)、イチゴ、イチジク(無花果「果実、葉」)、イチハツ(一初)、イチビ(冬葵子)、イチヤクソウ(一葉草)、イチョウ(銀杏「種子、葉」)、イトヒメハギ(遠志)、イナゴマメ、イヌナズナ(テイレキシ)、イヌビユ(ホナガイヌビユ)、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキジャコウソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ(岩菫)、イワヒバ又はイワマツ(卷柏)、ウーロン茶、ウイキョウ(茴香)、ウィート(チブサノキ)、ウキヤガラ(三稜)、ウグイスカグラ「果実」、ヒメウイキョウ、ウコン(鬱金)、ウキクサ(浮萍)、ウスバサイシン又はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン(細辛)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウチョウラン、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウニャデガト(ウンカリヤ、キャツクロー)、ウバ茶、ウメ(烏梅「種子、果肉」)、ウラジロガシ、ウワウルシ

(クサコケモモ)、ウンシュウミカン(陳皮)、ウンボク、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エゾスズラン、エチナシ(ホソバムラサキバレンギク)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスグサ又はカシヤ・トウラ(決明子)、エルカンブレ、エルダーベリー「果実」、エレミ、エリンギ又はアレロタスエリンジ、エンジュ(槐花、槐花米)、オウギ又はキバナオウギ(黄耆)、ナルコユリ又はカギクマバナルコユリ(黄精)、オウヒササノユキ又はササノユキ、オウレン(黄連)、オオガタホウケン、オオカラスウリ(カロコン)、オオグルマ(土木香)、オオツヅラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオバナアザミ(祁州漏芦、白頭翁)、オオハシバミ(榛子)、オオハシラサボテン、オオバナオケラ又はオケラ(白朮)、オオバナサルズベリ(バナバ)、オオバヤシャブシ「果実」、オオホシグサ(穀精草)、オオミアカテツ、オオミサンザシ又はサンザシ(山査子)、オオムギ(大麦)、オカ、オカゼリ(蛇床子)、オクラ「果実」、オグルマ(旋覆)、オクルリヒゴタイ(禹州漏芦、藍刺頭)、オタネニンジン又はトチバニンジン(人參)、オトギリソウ又はコゴメバオトギリソウ又はセイヨウオトギリソウ(弟切草)、オドリコソウ(統断)、オナモミ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドコロ又はトコロ又はナガドコロ(ヒカイ)、オニノヤガラ(天麻)、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ(百合)、オノエラン、オノニス、オヒョウ(裂葉榆)、オミナエシ(敗醬)、オユーコ、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダビユ、オランダミツバ、オリーブ「果実、種子、葉」、オレガノ、オレング「果実、果皮」、カイケイジオウ(熟地黄)、カカオ「果実、果皮、種子」、カキ(柿蒂「葉」)、カギカズラ(釣藤鉤)、カキドオシ又はカントリソウ(蓮銭草)、カキラン、ガクアジサイ、カシア、カジノキ(楮実「果実」)、ガジュツ(莢朮)、カシワ(榎樹、榎葉)、カスカリラ、カスカラサグラダ、カスミソウ、カセンソウ、カニクサ(金沙藤)、カニーワ、カーネーション、カノコソウ(吉草根)、カバ、カバノキ又はシダレカンバ(白樺)、ガベラ、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサンショウ(蜀椒)、ガマ(蒲黄)、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム(カモカモ)、カラ、カラクサケマン、カラスウリ又はシナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ「種子」、カラホオ(厚朴)、カラヤ、ガリュウ、カリン(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ(委陵菜、翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)又はエゾカワラナデシコ(瞿麦、瞿麦子)、カワラニンジン(青蒿)、カワラヨモギ(茵陈蒿)、カンスイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラアサ、カンドリラ、カントウ、カンナ、カンラン、キイチゴ(エゾイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパキイチゴ)、キウイ「果実、葉」、キカラスウリ(瓜呂根)、キキョウ(桔梗、桔梗



根)、キク(菊花、シマカンギク、チョウセンノギク)、キクタニギク、キササゲ(稗実)、ギシギシ(羊蹄根)、キジツ(枳実)、キズタ、キダチアロエ、キダチハッカ、キナ、キナノキ(シンコーナ、アカキナノキ)、キヌア(キノア)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キメンカク、キャベツ、キャベブ「未熟果」、キャラウェー、キュウリ、ギョリュウ(西河柳、てい柳)、キラジャ・サボナリア、キラヤ、キランソウ(金瘡小草)、キンカン「果実」、ギンセカイ、キンブセン、キンマ、キンミズヒキ(仙鶴草)、キンラン、ギンラン、キンリョウヘン、グアペーバ・ヴェルメーリヤ、グアバ「果実」、グアユーレ、ケルクス・インフェクトリア(没食子)、ククイナッツ、クゲヌマラン、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサスギカズラ(天門冬)、クズ(葛根)、クスノキ、グースベリー「果実」、クソニンジン(黄花蒿)、クティティリバー、クチナシ(山梔子)、クヌギ(樺ソウ)、クブアス、クベバ、クマザサ、クマツヅラ(馬鞭草)、クララ(苦參)、クランベリー「果実」、クリ「種子、果実、渋皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果実」、グレープフルーツ「果実・葉」、クロウメモドキ、クロガネモチ(救必応)、カメバヒキオコシ又はクロバナヒキオコシ又はヒキオコシ(延命草)、クローブ(丁子、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(荊芥、荊芥穂)、ケイトウ(鶏冠花、鶏冠子)、ゲッカビジン、ゲッケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリイバラ(土茯苓、山帰来)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鶴草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセッコク、キシユミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フクレミカン、サガミコウジ、ボンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウゾ「果実」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川骨)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コエンドロ「果実」、コオウレン(胡黃連)、コガネバナ(黄ゴン)、コケモモ(越橘)、ココヤシ「果実」、ゴシュユ(呉茱萸)、ゴショイチゴ(覆盆子)、コショウ(胡椒)、コスモス、コパイババルサム、コーヒー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタンヅル、ゴマ(胡麻)、ゴマノハグサ(玄參)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツバサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コメ油、コーラ・アクミナタ「種子」、コーラ・ベラ「種子」、コロニーリヤ、コロハ「果実」、コロシボ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンフリー(罌粟草)、サイザル(サイザルアサ)、サイハイラン、サカネラン(エゾサカネラン)、サキシマボタンヅル又はシナボタンヅル又はシナセンニンソウ(威靈仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮(桜皮)」)、サクラン

ボ、ザクロ、ササ、ササバギンラン、サザンカ、サジオモダカ(沢瀉)、サツマイモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸棗仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、サボジラ、サボテアマリヨ、ザボン「果実」、サボンソウ、サーモンベリー「果実」、サラシナショウマ(升麻)、サランシトウ(砂藍刺頭)、サルビア(セージ)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サンカクサボテン、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソウ、サンシチニンジン(三七人參)、サンシュユ(山茱萸)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カリテ)、シアノキ「果実」、シイタケ(椎茸)、シオン(紫苑)、ジキタリス、シクンシ(使君子)、シソ又はアオジソ又はチリメンジソ又はカタメンジソ(紫蘇葉、紫蘇子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ(連翹)、シメジ(ヒンシメジ、シャカシメジ、ハタケシメジ、オシロイシメジ、ブナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ)、シモクレン(辛夷)、シモツケソウ、ジャガイモ、シャクヤク(芍薬)、シャジン(沙參)、ジャスミン(マツリカ)、ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクコンカスミソウ、シュクシャミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シュロ「果実」、シュンラン、ショウガ(生姜)、ジョウザンアジサイ(常山)、ショウブ(菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シラン(ビャクキュウ)、シロゴチャウ「種子」、シロツメクサ(クローバー)、シロトウアズキ(鶏骨草)、シロバナイリス(ニオイイリス)、シロバナツタ「花」、シロミナンテン(南天実)、シンコナサクシルブラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモン、シンナモムム・カッシア(桂皮)、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ(酸模)、スイムベリー「果実」、スターアップル、ステビア、ストロベリー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(間蒨)、スベリヒユ(馬歯けん、馬歯けん子)、スモモ「果実」、スルگران(オラン)、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウスノキ、セイヨウタンポポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツユキソウ、セイヨウニワトコ(エルダー)、セイヨウネズ(ジュニパー、杜松)、セイヨウノコギリソウ(ミルフォイル)、セイヨウバラ、セイヨウフウチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッカ又はセイヨウヤマハッカ、セイヨウワサビ、セキショウ(石菖根)、セッコク(サクラセッコク、コウキセッコク、オオバナセッコク、オキナワセッコク、ホンセッコク、コチョウセッコク、シカクセッコク、キバナセッコク)(デンドロビウム、石斛)、セドロロン(ボウシュウボク)、ゼニアオイ、ヒロハセネガ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ(川キュウ)、センシレン(穿心連)、センダン、センニンサボテン、センナ「果実、葉」、センニンソウ(大蓼)、センブリ(当薬)、センボク、ソウカ(草果)、ゾウゲチュウ、ソシンロウバ

イ、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ダイオウ(大黃)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、枳実)、タカサゴリヒゴタイ(東南藍刺頭)、タカサブロウ(旱蓮草)、タカトウダイ(大戟)、タカワラビ(狗脊)、ダークスイートチェリー「果実」、タチアオイ、タチジャコウソウ(タイム、百里香)、タチドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ(辛夷)、タラノキ「果実、葉、根皮」、タラヨウ(大葉冬青、一葉茶、苦丁茶、苦灯茶)、ダリア(テンジクボタン)、タルウィ、タンシウチワ、タンジン(丹參)、タンボポ(蒲公英)又はシロバナタンボポ又はモウコタンボポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニンジン(竹節人參)、チコリ、チャンカピエドラ(キダチコミカンソウ)、チューリップ、チョコノステイ、チョウセンダイオウ(大黃)、チョウセンニレ(燕夷)、チョウセンヨモギ(艾葉)、チョレイマイタケ(猪苓)、チョロギ、ツキミソウ、ツクシサカネラン、ツクリタケ(マッシュルーム)、ツチアケビ、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、ツユクサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルツチアケビ、ツルドクダミ(何首烏)、ツルナ(蕃杏)、ツルニンジン(四葉參)、ツワブキ、デイコ、テウチグルミ、デュベリー「果実」、テングサ、テンチャ(甜茶)、テンダイウヤク(烏蘘)、トウガ(冬瓜子)、トウカギカズラ、トウガラシ(番椒)、トウキ(当歸)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナベナ(川斷)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蠻毛)、トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ(竜胆)、トクサ(木賊)、ドクダミ(十藥)、トコン(吐根)、トシシ又はマメダオシ又はネナシカズラ、トチュウ(杜仲「樹皮、葉、根」)、トネリコ(秦皮)、トマト、トラガント、トリアカンソス「種子」、トルコキキョウ、トルメンチラ、ドロノキ、トロロアオイ、トンカマメ、ナイゼリアベリー「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブッチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタマメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ(大棗)、ナニワイバラ(金桜子)、ナベナ(続斷)、ナメコ、ナンキンマメ(落花生)、ナンテン(南天実)、ナンパンカラムシ(苧麻)、ニオイスマレ、ニガキ(苦木)、ニガヨモギ(苦艾)、ニクズク、ケイ又はニッケイ又はセイロンニッケイ又はヤブニッケイ(桂皮)又はケイシ(桂枝)、ニョホウチドリ、ニラ(韭子)、ニワトコ(接骨木「果実、花、茎、葉」)、ニンニク(大蒜)、ヌルデ(五倍子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大薊)、ノイバラ(營実)、ノウゼンカズラ(凌霄花)、ノゲイトウ、ノコギリソウ、ノダケ(前胡)、ノバラ、ノモモ、パイナップル「果実」、ハイビスカス(ブッソウゲ、フウリンブッソウゲ、ローゼル)、ハイリンドウ、ハウチワ、パウ・ドーセ、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクカユマトウ、ハクサンチドリ、ハクセン(白癩皮)、ハクルベリー「果

実」、ハコベ(繁縷)、ハシバミ(榛子)、ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハチク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、バナナ、ハナハッカ、ハナビシ(シツリシ、シシツリ)、バニラビーンズ、パイヤ、ハハコグサ(鼠麴草)、パハロボボ、ハブ「全草、茎、葉」、パプリカ、ハマカキラン、ハマゴウ又はミツバハマゴウ(蔓荊子)、ハマスゲ(香附子)、ハマビシ(シツリ子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマボウフウ(浜防風)、ハメリス、バーム、バラ(薔薇)、バラータ、バラタゴムノキ、ハラタケ(ハラタケ、シロオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラン、パリウルス(セイヨウハマナツメ)、パリエタリア、ハルカンラン、バルサミーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白皮、榆葉)、バルバスコ、ハルリンドウ、ハンダイカイ(胖大海)、バンノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカゲツルニンジン(党參)、ピーカンナツツ、ヒガンバナ(石蒜、蔓珠沙華)、ヒグルマダリア、ヒゴタイ、ヒシ(菱実)、ピスタチオ、ビート、ヒトツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナギク(デージー)、ヒナタイノコズチ(牛膝)、ヒナチヨドリ、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ヒメムヨウラン、ビメンタ「果実」、ビヤクシ、ビヤッキュウ、ヒユ「果実」、ピロウドアオイ、ヒロハオキナグサ(白頭翁)、ピワ「果実、葉、茎」、ビンロウ(大服皮、檳榔子)、プーアル茶(普?茶)、フウトウカズラ(南籐)、フキ、フキタンボポ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、フジモドキ(チョウジザクラ、芫花)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジルニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、ブルーニェン、アラム「果実」、フルセラリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、プルーン、フローラルブランカ、ブロンドサイリウム、ブンドウ(綠豆)、ヘーゼルナツツ、ヘチマ、ヘツカラン、ベニバナ(紅花)、ヘネケン、ペラドンナ、ベリー「果実」、ペルセア、ペルビアンバーグ、ペレスキア・グランディフォリア、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボイセンベリー「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ホウサイラン、ホウセンカ(鳳仙、急性子、透骨草)、ボウテリア・サボタ、ボウテリア・ルクマ、ホウノキ、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホオズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバアブラギク(苦ヨク)、ホソバオグルマ、ホソバナオケラ(蒼朮)、ホソバノキリンソウ(景天三七)、ホソババレンギク、ボダイジュ(菩提樹)、ボタン(牡丹「花、葉、茎、樹皮」)、ボタンビ(牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ボリジ(ルリチシャ)、ボルドー、ホワートルベリー「果

実」、ホンオニク(肉じゅ蓉、大芸)、ホンセッコク(鉄皮石斛、雀山石斛)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミアナッツ、マーガレット(モクシュンギク)、マクリ(海人草)、マグワ(桑白皮「樹皮、葉」)、マグノリア・スプレングリ、マサランズーバ、マサランズーバ・ド・セアラ、マシェイラ・デ・ボイ、マシュア(タマノウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタタビ(木天蓼)、マツカサ、松「葉、樹皮、根」、マッタ・オーリョ、マツホド(茯苓)、マティコ(コルドンシージョ)、マヨラム(ハナハッカ)、マルバノジャジン(苦参)、マルベリー「果実」、マルメロ、マレイン(ピロウドモウズイカ)、マンゴー、マンゴスチン、マンサーニャ(アンデスカミツレ)、マンシュウグルミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサイコ(柴胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、ミゾカクシ(半辺蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ(篇蓄)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリサボテ、ミドリハッカ、ミモザ、ミョウガ、ミラクフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニャ、ムラサキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツフジ(昆明鵝血藤)、メガカンサ・オープンティカ、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モクギリ、モジェ(コショウボク)、モチノキ、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モレロチェリー「果実」、モロヘイヤ(黄麻)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマソウ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシヤブシ(矢車)又はヒメヤシヤブシ又はオオバヤシヤブシ「果実、果皮、果穂」、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(柳寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリュウヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ)、ヤナギタデ「葉、茎」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハノキ(山榛)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマヨモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイグサ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷丸)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット(薤白)、ラベンダー、リュウガン(竜眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リョクチャ(緑茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバス又はスアビスムス(甜涼)、ルリタマアザミ(ウラジロ

ヒゴタイ、新疆藍刺頭)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レッドピタヤ、レモン「果実」、レモングラス、レンギョウ又はシナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウバイ(蝟梅)、ロウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワタフジウツギ(密蒙花)、ワレモコウ(地榆)等が挙げられる。

【0069】海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ピレノイドサ、クロレラ・エリブソイディア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ)、アナアオサ(アオサ)]、海藻〔褐藻類：コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルプ(マクロシステリス・ピリフェラ、マクロシステリス・インテグリフォリア、ネオシステリス・ルエトケアーナ)、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、ウスバウミウチワ、キレバノウミウチワ、アカバウミウチワ、コナウミウチワ、オキナウチワ、ウスユキウチワ、エツキウミウチワ]、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタベグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンサイ、アマクサキリンサイ、キリンサイ、ビャクシンキリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、イボツノマタ、マルバツノマタ、ヒラコトジ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ]等が代表的なものとして挙げられる。

【0070】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリエラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、パルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナアオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッチエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属：タマゴバロニア、タマバロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワツタ属：フサイワツタ、スリコギツタ、ヘライワツタ、クロキツタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ

属：スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属等）。

【0071】藍藻類（スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ(スビルリナ)属：スビルリナ、トリコデスミウム(アイアカシオ)属等）。

【0072】褐藻類（ピラエラ属：ピラエラ、シオミドロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキヒロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブクロ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッパモク属：ラッパモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレ

モク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリ等）。

【0073】紅藻類（ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属：ミルノベニ、アケボノモズク属：アケボノモズク、コナハダ属：ハイコナハダ、ヨゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属：ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガシラノリ、ベニモズク属：ベニモズク、ホソベニモズク、カサマツ属：カサマツ、フサノリ属：フサノリ、ニセフサノリ属：ニセフサノリ、ソデガラミ属：ソデガラミ、ガラガラ属：ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属：ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属：タマイタダキ、カギケノリ属：カギノリ、カギケノリ、テングサ属：ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブグサ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属：ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属：イソムメモドキ、ミチガエソウ属：ミチガエソウ、リュウモンソウ属：リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属：ニセカレキグサ、オキツバラ属：オオバオキツバラ、アカバ属：アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属：ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属：ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属：シオグサゴロモ、イワノカワ属：エツキイワノカワ、カイノカワ属：カイノカワ、カニノテ属：カニノテ、サンゴモ属：サンゴモ、ムカデノリ属：ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、フダラク、マルバフダラク、イソノハナ属：ヌラクサ、クロヌラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、フシキントキ、ツノムカデ、ナガキントキ、スジムカデ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバネ属：ナガオバネ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレキグサ属：カレキグサ、トサカモドキ属：ホソバノトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、ユウソラ、エツキノトサカモドキ、ナンカイトサカモドキ、ヒメトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギヌ、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニスナゴ属：ベニスナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラグサ属：ヤマダグサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカ

リ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、ベニオゴノリ、フクレシノリ、ムラサキカバノリ、シンカイカバノリ、トゲカバノリ、カタオゴノリ、リュウキュウオゴノリ、セイヨウオゴノリ、イツツギヌ、ユミガタオゴノリ、クビレオゴノリ、モサオゴノリ、キヌカバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジグサ属：ハスジグサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラグサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバグサ属：ウエバグサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フシツナギ属：フシツナギ、ヒメフシツナギ、ヒロハフシツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハノリ科：ハブタエノリ、コノハノリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギヌ属：ハスジギヌ、ナガコノハノリ属：ナガコノハノリ、スジギヌ属：スジギヌ、アツバスジギヌ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニシキ属：アヤニシキ、アヤギヌ属：アヤギヌ、ダジア属：エナシダジア、シマダジア属：イソハギ、シマダジア、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツレユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササバヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジ

ノリ属：チスジノリ等）。

【0074】車軸藻類（シャジクモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタムヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属等）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモ等）等。

【0075】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛又は豚、人の胎盤抽出物、牛又は豚の胃、十二指腸、腸、脾臓の抽出物若しくはその分解物、牛又は豚の脳組織の抽出物、コラーゲン加水（酸、アルカリ、酵素等）分解物や水溶性コラーゲン又はアシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物（グロビンペプチド）、牛又は豚ヘモグロビン分解物（ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物、核酸関連物質（リボ核酸、デオキシリボ核酸）等。

【0076】又、植物又は動物系原料由来の素材としては、遺伝子組み替え体や細胞融合体由来の任意の部位、細胞、組織、器官、代謝物等も使用することができる。更に、任意の部位、細胞、組織、器官等を細胞培養することによって得られる、例えば未分化細胞群や分化途中の細胞群等も使用することができる。

【0077】(14)海洋成分

深層水等の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩（塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウム等）、海泥又は泥（ファンゴ）類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴ等の各地の海泥又は泥（含有成分：二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水）、聖徳石等。

【0078】(15)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、細菌代謝物、細菌抽出エキス、カビ又は放線菌代謝物、カビ又は放線菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米糠（赤糠、白糠）発酵エキス、ユーグレナ抽出物又はその分解物又はそれら水溶性誘導体、トレハロース又はその誘導体、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物等。

【0079】(16)α-ヒドロキシ酸類

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸等。

【0080】(17)無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、

ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミン等。

【0081】(18)紫外線吸収／遮断剤

ベンゾフェノン誘導体（2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノン等）、パラアミノ安息香酸誘導体（パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等）、メトキシ桂皮酸誘導体（パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル等）、サリチル酸誘導体（サリチル酸オクチル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチル等）、アントラニル酸誘導体（アントラニル酸メチル等）、ウロカニン酸誘導体（ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル等）、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ベンゾレソルシノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリン等。

【0082】(19)美白剤

パラアミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ピリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体（ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等）、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレ

ン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、胎盤エキス、エラグ酸、ルシノール等。

【0083】(20)チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体（ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシド等）、ハイドロキノン又はその誘導体（ハイドロキノンベンジルエーテル等）、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラグ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス（カミツレ、クワ、クチナシ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユウカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙薬）等。

【0084】(21)メラニン色素還元／分解物質

フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体（ハイドロキノンベンジルエーテル）等。

【0085】(22)ターンオーバーの促進作用／細胞賦活物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、霊芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス（アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、パセリ）等。

【0086】(23)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、パラフェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸（カテキン化合物を含む）等。

【0087】(24)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼ等。

【0088】(25)抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドログアセレン酸、ブチルヒドロキシトルエン（BHT）、ブチルヒドロキシアニソール（BHA）、ヒドロキシチロソール、パラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボール、プロボリス等。

【0089】(26)過酸化脂質生成抑制剤

$\beta$ -カロチン、植物エキス（ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、サルビア、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチョウ、緑茶）等。

【0090】(27)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェニヒドラミン、d-カンフル、dl-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキス、プロボリス等。

【0091】(28)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミンT、サラシ粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、プロピオン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硝酸塩、フェノール、クレゾール、p-クロロフェノール、p-クロロ-m-キシレノール、p-クロロ-m-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、0-フェニルフェノール、イルガサンCH3565、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、クロルヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、2-フェノキシエタノール、1,2-ペンタジオール、ジンクピリジオン、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル等）、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤（ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンカリウム等）、カチオン界面活性剤（臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン）、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリラントグリーン、マラカイトグリーン、クリスタルバイオレット、ジャーマル、感光素101号、感光素201号、感光素401号、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジン、プロボリス等。

【0092】(29)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン又はその誘導体或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキ

ス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、ヘチマ水、シラカバ（白樺）又は赤松の樹液

【0093】(30)エラストーゼ活性阻害剤

フロオロリン酸ジイソプロピル、植物エキス（オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ケイヒ、ゲンノショウコ、コンフリー、サルビア、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボタンビ）、海藻エキス等。

【0094】(31)頭髮用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジシクロピリチオン、ピフェナミン、チアントール、カスターチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸等。

【0095】(32)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン（エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオール等）、イソフラボン、オキシンドロン等。

【0096】(33)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジル等。

【0097】(34)刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジル等。

【0098】(35)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ベンタデカン酸グリセリド等。

【0099】(36)抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6等。

【0100】(37)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸、尿素等。

【0101】(38)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム過酸化水素付加体、塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 $\beta$ -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液等。

【0102】(39)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウム等の無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチ



ウム)等。

【0103】(40)毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、グアニジン等。

【0104】(41)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロオルトフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 $\alpha$ -ナフトール、ヒドロキノン、ピロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテイン等。

【0105】(42)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーgris等の天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カナンガ精油、カラウエー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コパイバルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スベアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬緑精油、トルーバルサム精油、バチュリー精油、バラ精油、パルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、

白檀精油、プチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油等の植物性香料、その他合成香料等。

【0106】(43)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナトー色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチン等。

【0107】(44)その他

ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ剤、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、抗炎症剤・消炎剤・抗アレルギー剤、創傷治療剤、増泡剤、増粘剤、酵素、精製水(電子水、小クラスター化等)、口腔用剤、消臭・脱臭剤等が上げられ、これらと併用することによって、本発明効果又は他の美容的効果の相加的又は相乗的向上が期待できる。

【0108】

【実施例】以下、製造例、試験例、処方例を示し本発明をより詳しく説明する。但し、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0109】[製造例1]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッシュウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Lactobacillus casei (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晩醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、1,3-ブチレングリコールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0110】[製造例2]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッシュウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Lactobacillus casei (0.1~0.8kg)

を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、エタノールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0111】[製造例3]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッショウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Lactobacillus bulgaricus (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、1.3-ブチレングリコールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0112】[製造例4]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッショウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Lactobacillus bulgaricus (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、エタノールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0113】[製造例5]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッショウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Streptococcus lactis (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、1.3-ブチレングリコールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0114】[製造例6]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、

ユ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッショウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Streptococcus thermophilus (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、1.3-ブチレングリコールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0115】[製造例7]アズキ、インゲンマメ、エンジュ、エンドウ、オランダビュ、キマメ、キンキジュ、クズ、ゲンゲ、コエビスグサ、コロハ、シカクマメ、ジュウロクササゲ、ソラマメ、タマリンド、タンキリマメ、ツルマメ、トウサイカチ、ナタマメ、ハッショウマメ、ヒヨコマメ、ヒラマメ、フジマメ、ラッカセイ、シロバナルーピンの種子、各々(1kg)を水洗後、水に一晩浸漬する。精製水(10~50kg)を添加した後、粉碎し、100℃で3分間加熱する。Bifidobacterium bifidum (0.1~0.8kg)を加え、37℃付近にて一晚醗酵する。次いで遠心分離器により上清を得る。適宜、活性炭にて脱臭、脱色を行った後、1.3-ブチレングリコールを加え、無菌ろ過して醗酵物(固形分濃度0.8~2.5%)を得た。

【0116】[試験1]チロシナーゼ活性阻害作用試験(試験方法)チロシン溶液(L-チロシン0.3mg/mL)1.0mL、マックルバイン緩衝液(pH6.5)2.0mL及び検体溶液を0.2mLを混合して、37℃恒温槽中で、約10分間放置した後、これにチロシナーゼ溶液(マッシュルーム由来、2500unit/mL)0.1mLを加えた後、475nmの吸光度を測定(A)し、その後、この反応液を37℃恒温槽中で、20分間放置後、同様に、475nmの吸光度を測定する(A')。又、同時にブランクとして、検体溶液の代わりに、精製水にて同様な操作で吸光度を測定(a)、(a')してチロシナーゼ活性阻害率を数1により求めた。表2はその結果である。

(試料)検体溶液として、製造例1によって得られた本発明品を固形分濃度0.1%となるよう精製水で調整し、試験に供した。

【0117】〈数1〉

$$\text{阻害率}(\%) = \{(a' - a) - (A' - A)\} / (a' - a) \times 100$$

【0118】

【表1】

〔試験1〕チロシナーゼ活性阻害作用結果（阻害率％）			
試 料	製造例 1	製造例 2	製造例 3
アズキ油抽出物乳酸菌発酵物	20.1	22.0	19.2
インゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	28.8	30.2	26.7
エンジュ抽出物乳酸菌発酵物	27.5	28.7	27.0
エンドウ抽出物乳酸菌発酵物	22.0	24.3	23.8
オランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	26.5	29.0	25.0
キマメ抽出物乳酸菌発酵物	19.8	24.6	17.6
キンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	25.2	28.6	26.5
クズ抽出物乳酸菌発酵物	28.0	30.4	27.1
ゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	27.1	31.0	25.9
コエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	26.5	29.8	24.3
コロハ抽出物乳酸菌発酵物	20.6	22.4	21.3
シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	21.5	23.0	19.9
ジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	18.9	21.8	19.9
ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	21.4	23.6	22.3
タマリンド抽出物乳酸菌発酵物	26.0	27.6	25.1
タンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	17.9	19.2	18.5
ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	23.1	26.1	23.0
トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	22.6	23.1	24.3
ナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	25.7	24.9	24.1
ハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	26.8	24.6	27.0
ヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	20.6	23.4	19.2
ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物粉	27.5	29.2	28.3
フジマメ抽出物乳酸菌発酵物	19.5	22.7	20.8
ラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	26.8	29.0	25.7
シロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物	27.6	30.5	16.2
対照（コウジ酸）	51.6		

【0119】表1より、製造例1によって得られた本発明品は、チロシナーゼ活性阻害作用を有することが確認された。

#### 【0120】〔試験2〕安全性試験

##### （1）皮膚一次刺激性試験

製造例1～7によって得られた本発明品を乾燥固形分濃度が約1.0%となるように精製水にて調製し、背部を剪毛した日本白色家兔（雌性、1群3匹、体重2.3kg前後）の皮膚に適用した。判定は、適用後24,48,72時間に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、何など、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

#### 【0121】〔試験3〕安全性試験

##### （2）皮膚累積刺激性試験

同様に製造例1～7によって得られた本発明品を乾燥固形分濃度が約1.0%となるように精製水にて調製し、側腹部を剪毛したハートレー系モルモット（雌性、1群3匹、体重320g前後）の皮膚に1日1回、週5回、0.5mL／匹を塗布した。塗布は2週に渡って行い、剪毛は各週（処方例1）乳液

の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

#### 【0122】〔試験4〕安全性試験

##### （3）急性毒性試験

同様に製造例1～7によって得られた本発明品を減圧濃縮・乾燥して得られた粉末（乾燥固形分約1.0%）を試験前、4時間絶食させたddy系マウス（雄性及び雌性、1群5匹、5週齢）に2,000mg/kg量経口投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、すべてのマウスにおいて14日間何等異状を認めず、又、解剖の結果も異状がなかった。よって、LD50は2,000mg/kg以上と判定された。

#### 【0123】〔処方例〕各種製剤の製造

本発明による化粧料組成物を各種製造した。以下にその処方例を示すが、本発明はこれらに限定されない。

#### 【0124】

	重量%
1.スクワラン	8.0
2.ホホバ油	7.0
3.セチルアルコール	1.5
4.グリセリンモノステアレート	2.0

5. ポリオキシエチレン (20) セチルエーテル	3.0
6. ポリオキシエチレン (20) ソルビタンモノオレート	2.0
7. 1,3-ブチレングリコール	1.0
8. グリセリン	2.0
9. A: 製造例 1 のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	
B: 製造例 1 のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	
C: 製造例 1 のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	
D: 製造例 1 のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	
E: 製造例 1 のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	
F: 製造例 1 のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	
G: 製造例 1 のキンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	
H: 製造例 1 のクズ抽出物乳酸菌発酵物	
I: 製造例 1 のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	
J: 製造例 1 のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	
K: 製造例 1 のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	
L: 製造例 1 のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	
M: 製造例 1 のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	
N: 製造例 1 のソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
O: 製造例 1 のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	
P: 製造例 1 のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	
Q: 製造例 1 のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	
R: 製造例 1 のトウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	
S: 製造例 1 のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	
T: 製造例 1 のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	
U: 製造例 1 のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	
V: 製造例 1 のヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
W: 製造例 1 のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	
X: 製造例 1 のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	
Y: 製造例 1 のシロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物粉末	
※ A～Y 何れか 1 種の抽出液又は成分	5.0
10. 防腐剤 ( パラオキシ安息香酸エステル )	適量
11. 香料	適量
12. 精製水	100とする残余

【 0125 】

( 処方例 2 ) 乳液

	重量%
1. スクワラン	8.0
2. ホホバ油	7.0
3. パラアミノ安息香酸グリセリル	1.0
4. ウロカニン酸エチル	1.0
5. ビタミン C リン酸エステルマグネシウム塩	1.0
6. セチルアルコール	1.5
7. グリセリンモノステアレート	2.0
8. ポリオキシエチレン (20) セチルエーテル	3.0
9. ポリオキシエチレン (20) ソルビタンモノオレート	2.0
10. 1,3-ブチレングリコール	1.0
11. グリセリン	2.0
12. 製造例 5 のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	3.0
13. 製造例 5 のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	3.0
14. 製造例 6 のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	3.0

15. サカネラン45%1,3-ブチレングリコール抽出液	3.0
16. コウボク熱水抽出液	3.0
17. 防腐剤 ( パラオキシ安息香酸エステル )	適量
18. 精製水	100とする残余

## 【 0126 】

## ( 処方例3 ) 化粧用オイル

	重量%
1. 流動パラフィン	30.0
2. スクワラン	20.0
3. オリーブ油	20.0
4. パルミチン酸イソプロピル	10.0
5. グレープフルーツ果実又は葉熱水抽出液	3.0
6. ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物グリセリン抽出液	3.0
7. タンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物グリセリン抽出液	3.0
8. トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物グリセリン抽出液	2.0
9. オリーブ油	1.0
10. シア脂	1.0
11. ブチルヒドロキシアニソール	0.1
12. ビタミンE誘導体	0.1
13. 防腐剤 ( 塩化ベンザルコニウム )	適量
14. 香料 ( ジャコウ水 )	適量
15. 精製水	100とする残余

## 【 0127 】

## ( 処方例4 ) 柔軟性化粧水

	重量%
1. グリセリン	5.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20E.0)	1.0
4. エタノール	15.0
5. A: 製造例2のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	
B: 製造例2のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	
C: 製造例2のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	
D: 製造例2のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	
E: 製造例2のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	
F: 製造例2のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	
G: 製造例2のキンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	
H: 製造例2のクズ抽出物乳酸菌発酵物	
I: 製造例2のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	
J: 製造例2のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	
K: 製造例2のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	
L: 製造例2のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	
M: 製造例2のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	
N: 製造例2のソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
O: 製造例2のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	
P: 製造例2のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	
Q: 製造例2のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	
R: 製造例2のトウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	
S: 製造例2のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	
T: 製造例2のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	
U: 製造例2のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	

V:製造例2のヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
W:製造例2のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	
X:製造例2のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	
Y:製造例2のシロバナルービン抽出物乳酸菌発酵物粉末	
※A～Y何れか1種の抽出液又は成分	5.0
6. シェンラン45%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
7. ミチヤナギ50%エタノール抽出液	1.0
8. イレクス・グアユサ50%エタノール抽出液	1.0
9. 抗菌・防腐剤（ラクトフェリン溶液）	適量
10. 香料（西洋薄荷水）	適量
11. 精製水	100とする残余

## 【0128】

( 処方例5 ) 収れん化粧水

	重量%
1. ソルビット	2.0
2. POE (20) オレイルアルコール	1.0
3. エタノール	15.0
4. 製造例5のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
5. 製造例2のヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
6. 製造例2のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
7. 製造例6のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8. アラントイン	0.2
9. 収れん剤（スルホ石炭酸亜鉛）	0.2
10. 抗菌・防腐剤（チアミンラウリル硫酸塩）	適量
11. 香料（ラベンダー水）	適量
12. 精製水	100とする残余

## 【0129】

( 処方例6 ) 2層式化粧水（液～液型）

	重量%
1. スクワラン	8.0
2. POEソルビタンテトラオレイン酸エステル	0.3
3. ソルビット	1.0
4. エタノール	15.0
5. 製造例2のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
6. キンキジュ抽出物乳酸菌発酵物30%グリセリン抽出液	1.0
7. ゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物30%グリセリン抽出液	1.0
8. 製造例7のオランダビユ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
9. アスコルビン酸	0.2
10. 収れん剤（カラミン）	0.1
11. 防腐剤（フェノキシエタノール）	適量
12. 香料（レモン水）	適量
13. 精製水	100とする残余

## 【0130】

( 処方例7 ) カーマインローション（液～固型）

	重量%
1. グリセリン	3.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. エタノール	15.0
4. 酸化鉄（ベンガラ）	0.2
5. 酸化亜鉛	0.5

6. カオリン		2.0
7. コロハ抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	2.0
8. ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	2.0
9. タマリンド抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	2.0
10. 製造例4のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物		2.0
11. プラセンタエキス		2.0
12. カンファー		0.2
13. フェノール		0.03
14. 防腐剤（感光素201&401号）		適量
15. 香料（菩提樹水）		適量
16. 精製水		100とする残余

## 【0131】

## （処方例8）パック

	重量%
1. ポリビニルアルコール	15.0
2. カルボキシメチルセルロースナトリウム	5.0
3. プロピレングリコール	3.0
4. エタノール	10.0
5. 製造例2のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
6. 製造例2のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
7. 製造例4のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8. 製造例4のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
9. シラン30%エタノール抽出液	2.0
10. 防腐剤（パラオキシ安息香酸エステル）	適量
11. 香料（当帰水）	適量
12. 精製水	100とする残余

## 【0132】

## （処方例9）ピールオフパック

	重量%
1. グリセリン	5.0
2. プロピレングリコール	4.0
3. ポリビニルアルコール	15.0
4. エタノール	8.0
5. ポリオキシエチレングリコール	1.0
6. パントテニルエチルエーテル	1.0
7. 製造例2のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8. 製造例2のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
9. 製造例4のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
10. 防腐剤（パラオキシ安息香酸エステル）	適量
11. 香料（檜葉水）	適量
12. 精製水	100とする残余

## 【0133】

## （処方例10）コールドクリーム

	重量%
1. サラシミツロウ	11.0
2. 流動パラフィン	22.0
3. ラノリン	10.0
4. オリーブ油	5.0
5. カミツレ油	5.0
6. パーム油	5.0



7. ホウ砂	0.5
8. クズ抽出物乳酸菌発酵物 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
9. コエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
10. シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:1抽出溶媒)	2.0
11. 液状シア脂	1.0
12. 防腐剤 (アクリノール)	0.1
13. 香料 (セージ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

## 【 0134 】

## ( 処方例 11 ) エモリエントクリーム

	重量%
1. ステアリン酸	2.0
2. ステアリルアルコール	7.0
3. 還元ラノリン	2.0
4. スクワラン	5.0
5. オクチルドデカノール	6.0
6. ポリオキシエチレンセチルエーテル (25E.O.)	3.0
7. 親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
8. プロピレングリコール	5.0
9. ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	3.0
10. 製造例1のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	3.0
11. 製造例5のトウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	3.0
12. 製造例6のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	3.0
13. 防腐剤 (パラベン)	適量
14. 香料 (丁子水)	適量
15. 精製水	100とする残余

## 【 0135 】

## ( 処方例 12 ) 洗顔クリーム

	重量%
1. ミリスチン酸	25.0
2. ステアリン酸	5.0
3. 牛脂脂肪酸	5.0
4. プロピレングリコール	10.0
5. 水酸化カリウム	6.0
6. ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7. ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物 (エタノール:1,3-ブチレングリコール=1:2抽出溶媒)	2.0
8. ラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出液	2.0
9. アズキ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	2.0
10. ヘチマ果実又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
11. グリチルレチン酸ジカリウム	1.0
12. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
13. 香料 (セージ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

## 【 0136 】

## ( 処方例 13 ) 洗顔クリーム

重量%

1. ステアリン酸	10.0
2. パルミチン酸	10.0
3. ミリスチン酸	12.0
4. ラウリン酸	4.0
5. オレイルアルコール	1.5
6. ラノリン誘導体 (E.O. 付加物)	1.0
7. グリセリン	18.0
8. 水酸化カリウム	6.0
9. A: 製造例3のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	
B: 製造例3のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	
C: 製造例3のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	
D: 製造例3のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	
E: 製造例3のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	
F: 製造例3のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	
G: 製造例3のキンギジュ抽出物乳酸菌発酵物	
H: 製造例3のクズ抽出物乳酸菌発酵物	
I: 製造例3のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	
J: 製造例3のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	
K: 製造例3のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	
L: 製造例3のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	
M: 製造例3のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	
N: 製造例3のソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
O: 製造例3のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	
P: 製造例3のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	
Q: 製造例3のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	
R: 製造例3のトウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	
S: 製造例3のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	
T: 製造例3のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	
U: 製造例3のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	
V: 製造例3のヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
W: 製造例3のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	
X: 製造例3のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	
Y: 製造例3のシロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物粉末	
※ A~Y 何れか1種の抽出液又は成分	5.0
10. グリチルリレチン酸	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (当帰水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【 0137 】

( 処方例14 ) ボディーソープ

	重量%
1. ラウリン酸カリウム	15.0
2. ミリスチン酸カリウム	5.0
3. プロピレングリコール	5.0
4. 乳清	1.5
5. 製造例1のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
6. 製造例1のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
7. 製造例5のキンギジュ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
8. 製造例6のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
9. ポリエチレン末	0.5

10. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
11. アミノ酸 (グリシン、グルタミン等)	0.5
12. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量
13. pH調整剤	適量
14. 香料 (ラベンダー水)	適量
15. 精製水	100とする残余

## 【 0138 】

( 処方例 15 ) サンスクリーン化粧品 ( O / W 型 )

		重量%
1. オキシベンゾン		2.0
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル		5.0
3. スクワラン		10.0
4. ワセリン		5.0
5. ステアリルアルコール		3.0
6. ステアリン酸		3.0
7. グリセリルモノステアレート		2.0
8. ポリアクリル酸エチル		1.0
9. 1,3-ブチレングリコール		6.0
10. エデト酸二ナトリウム		0.1
11. トリエタノールアミン		1.0
12. 二酸化チタン		5.0
13. コロハ抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	0.5
14. シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	0.5
15. ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物50%	抽出液	0.5
16. 桑白皮50%ジプロピレングリコール抽出液		0.5
17. 紫根50%ジプロピレングリコール抽出液		0.5
18. 防腐剤 (パラベン)		適量
19. 香料 (林檎水)		適量
20. 精製水		100とする残余

## 【 0139 】

( 処方例 16 ) サンスクリーン化粧品 ( オイルタイプ )

	重量%
1. 流動パラフィン	70.0
2. パラアミノ安息香酸エチル	1.0
3. テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0
4. セチルオクタノエート	25.0
5. 製造例 1 のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
6. 製造例 1 のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	2.0
7. 製造例 3 のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8. 製造例 3 のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
9. ユキノシタ全草30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
10. ハトムギ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
12. 茴香果実30%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
12. 酸化防止剤 (ブチルヒドロキシルエン)	適量
13. 香料 (ボダイジュ水)	適量

## 【 0140 】

( 処方例 17 ) クリームファンデーション ( O / W 型 )

	重量%
1. ステアリン酸	4.0
2. モノステアリン酸グリセリン	3.0

3. セタノール	1.5
4. ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5. 流動パラフィン	10.0
6. サラシミツロウ	3.0
7. トリエタノールアミン	1.5
8. グリセリン	3.0
9. ベントナイト	1.0
10. 酸化チタン	8.0
11. 2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン	8.0
12. カオリン	3.0
13. タルク	3.0
14. 着色顔料 (黄酸化鉄)	1.0
15. フジマメ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出乾燥粉末	0.2
16. インゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出乾燥粉末	0.2
17. エンドウ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出乾燥粉末	0.2
18. キマメ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出乾燥粉末	0.2
19. シロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出乾燥粉末	0.2
20. 防腐剤 (パラベン)	適量
21. 香料 (ローズ水)	適量
22. 精製水	100とする残余

## 【 0141 】

( 処方例 18 ) シャンプー

	重量%
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2. ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5. エデト酸二ナトリウム	0.1
6. 製造例 2 のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
7. 製造例 2 のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8. 製造例 4 のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
9. 製造例 4 のキンギジュ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
10. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	2.0
11. ムコ多糖体溶液	1.0
12. 抗菌・防腐剤 (感光素 101 号)	適量
13. pH 調整剤	適量
14. 香料 (白檀水)	適量
15. 精製水	100とする残余

## 【 0142 】

( 処方例 19 ) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. 製造例 5 のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
6. 製造例 5 のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
7. 製造例 6 のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
8. フキタンポポ 50% 1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
9. ヒドロキシエチルキトサン溶液	1.0

10.トレハロース溶液	1.0
11.加水分解シルク溶液	1.0
12.抗菌・防腐剤（塩化ベンザルコニウム）	適量
13.香料（ラベンダー水）	適量
14.精製水	100とする残余

## 【 0 1 4 3 】

## （処方例20）リンス

	重量%
1.塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2.セトステアリルアルコール	2.0
3.ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4.プロピレングリコール	5.0
5.エチレングリコール	3.0
6.製造例1のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	1.0
7.製造例1のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
8.製造例3のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
9.製造例5のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
10.製造例6のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
11.製造例7のシロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物	1.0
12.製造例7のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
13.トレハロース溶液	1.0
14.加水分解セラチン溶液	1.0
15.抗菌・防腐剤（塩化ベンザルコニウム）	適量
16.香料（カミツレ水）	適量
17.精製水	100とする残余

## 【 0 1 4 4 】

## （処方例21）ヘアーリキッド

	重量%
1.エタノール	29.0
2.ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3.ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4.トリエタノールアミン	1.0
5.ユズ熱水抽出液	2.0
6.製造例2のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
7.製造例2のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
8.製造例4のクズ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
9.製造例4のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
10.メリッサ全草50%エタノール抽出液	1.0
11.オタネニンジン根50%エタノール抽出液	1.0
12.塩化カルプロニウム	0.3
13.ヒノキチオール	0.5
14.セラチン分解溶液	1.0
15.抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
16.香料（センキュウ水）	適量
17.精製水	100とする残余

## 【 0 1 4 5 】

## （処方例22）ヘアーリキッド

	重量%
1.エタノール	29.0
2.ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0

3.ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4.トリエタノールアミン	1.0
5.トリメチレングリコール	5.0
6.製造例2のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
7.製造例2のソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
8.製造例4のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	1.0
9.パセリ全草50%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
10.ヒワ葉30%エタノール抽出液	1.0
11.アズレン	1.0
12.抗菌・防腐剤（パラベン、塩化ベンザルコニウム）	適量
13.香料（トウキ水）	適量
14.精製水	100とする残余

## 【0146】

( 処方例23 ) ヘアートニック

	重量%
1.エタノール	40.0
2.オレイン酸エチル	1.0
3.ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4.トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出液	3.0
5.ハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出液	3.0
6.牡丹皮50%エタノール抽出液	3.0
7.柚子葉又は果実50%エタノール抽出液	3.0
8.防腐剤（パラベン）	適量
9.精製水	100とする残余

## 【0147】

( 処方例24 ) ヘアートニック

	重量%
1.1-メントール	0.2
2.エタノール	32.5
3.ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5
4.プロピレングリコール	5.0
5.塩酸ジフェンヒドラミン	0.3
6.ユズ熱水抽出液	2.0
7. A:製造例4のアズキ抽出物乳酸菌発酵物	
B:製造例4のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	
C:製造例4のエンジュ抽出物乳酸菌発酵物	
D:製造例4のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物	
E:製造例4のオランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	
F:製造例4のキマメ抽出物乳酸菌発酵物	
G:製造例4のキンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	
H:製造例4のクズ抽出物乳酸菌発酵物	
I:製造例4のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	
J:製造例4のコエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	
K:製造例4のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	
L:製造例4のシカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	
M:製造例4のジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	
N:製造例4のソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
O:製造例4のタマリンド抽出物乳酸菌発酵物	
P:製造例4のタンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	
Q:製造例4のツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	

R:製造例4のトウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	
S:製造例4のナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	
T:製造例4のハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	
U:製造例4のヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	
V:製造例4のヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物	
W:製造例4のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物	
X:製造例4のラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	
Y:製造例4のシロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物粉末	
※A～Y何れか1種の抽出液又は成分	5.0
8.カルボキシメチルキチン溶液	1.0
9.ビタミンE誘導体	0.5
10.抗菌・防腐剤(パラベン)	0.1
11.香料(セージ水)	適量
12.精製水	100とする残余

## 【0148】

(処方例25) 育毛・養毛剤

	重量%
1.エタノール	60.0
2.ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	3.0
3.ラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	3.0
4.アズキ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	3.0
5.エンジュ抽出物乳酸菌発酵物50% 抽出液	2.0
6.ヨモギ葉又は茎50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
7.矢車の実50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
8.ビタミンE誘導体	0.5
9.トウガラシチンキ	0.5
10.レゾルシン	0.5
11.グリチルリチン酸ジカリウム	0.5
12.カルボキシメチルキチン溶液	0.5
13.牛へマチン液	0.5
14.ムチン溶液	0.5
15.アミノ酸(グリシン、グルタミン等)	0.5
16.抗菌・防腐剤(パラベン)	0.1
17.香料(ローズマリー水)	適量
18.精製水	100とする残余

## 【0149】

(処方例26) 育毛・養毛剤

	重量%
1.エタノール	60.0
2.製造例5のオレンジビュ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
3.製造例6のキンギジュ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
4.製造例6のゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
5.製造例7のコロハ抽出物乳酸菌発酵物	2.0
6.センブリ(当薬)全草60%エタノール抽出液	1.0
7.カンタリスチンキ	0.5
8.パントテン酸誘導体	0.5
9.グリチルリチン酸	0.5
10.レゾルシン	0.5
11.サリチル酸	0.5
12.ヒドロキシエチルキトサン溶液	0.5



13. エラスチン加水分解液	0.5
14. 抗菌・防腐剤（パラベン）	0.1
15. 香料（ラベンダー水）	適量
16. 精製水	100とする残余

## 【0150】

（処方例27）顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	2.0
4. A: アズキ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
B: インゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
C: エンジュ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
D: エンドウ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
E: オランダビユ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
F: キマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
G: キンキジュ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
H: クズ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
I: ゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
J: コエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
K: コロハ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
L: シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
M: ジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
N: ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
O: タマリンド抽出物乳酸菌発酵物粉末	
P: タンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
Q: ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
R: トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
S: ナタマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
T: ハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
U: ヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
V: ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
W: フジマメ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
X: ラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物粉末	
Y: シロバナルービン抽出物乳酸菌発酵物粉末	
※A～Y 何れか1種の抽出粉末	5.0
5. 色素（ゲンジョウ緑）	適量

## 【0151】

（処方例28）顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0
3. ホウ砂	4.0
4. ジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物乾燥粉末	3.0
5. タマリンド抽出物乳酸菌発酵物乾燥粉末	3.0
6. ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物乾燥粉末	3.0
7. ナタマメ抽出物乳酸菌発酵物乾燥粉末	3.0
8. ヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物乾燥粉末	2.0
9. 細果冬青70%エタノール抽出乾燥粉末	1.0
10. 菖蒲葉又は根70%エタノール抽出乾燥粉末	1.0

11. 林檎果汁粉末	1.0
12. 色素（ゲンジョウ、水酸化クロム）	適量
13. 香料（ブドウ水）	適量

## 【0152】（処方例29）被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布に製造例1のフジマメ抽出物乳酸菌発酵物、製造例3のシロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物、製造例3のインゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物、製造例1のエンドウ抽出物乳酸菌発酵物、抗生物質・抗炎症などを適量混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する被服保護剤とする。又、クズ抽出物乳酸菌発酵物熱水抽出物を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

## 【0153】（試験5）使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストはシミ、ソバカス、色黒で悩む人30～60歳の各10名をパネラーとし、毎

日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量を顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。尚、対照には、乳液から本発明の各植物抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表1の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

## 【0154】「シミ・ソバカス&amp;皮膚色改善効果」

有 効：シミ・ソバカスや肌の色が白く改善された。

やや有効：シミ・ソバカスや肌の色が白く改善された。

無 効：使用前と変化なし。

## 【0155】

## 【表2】

【試験5】シミ・ソバカス・肌色改善試験結果			
試 料	有 効	やや有効	無 効
アズキ油抽出物乳酸菌発酵物	7	2	1
インゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	4	1
エンジュ抽出物乳酸菌発酵物	6	2	2
エンドウ抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
オランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	7	2	1
キマメ抽出物乳酸菌発酵物	7	3	0
キンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	6	2	2
クズ抽出物乳酸菌発酵物	7	3	0
ゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
コエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	5	3	2
コロハ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	6	4	0
ジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	5	4	1
ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	3	2
タマリンド抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
タンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	3	3
ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	5	5	0
ナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	4	1
ハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
ヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	6	4	0
ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物粉	6	3	1
フジマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	3	3
ラッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	7	2	1
シロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
対 照	0	0	10

【0156】（試験結果）表2の通り、本発明のマメ科植物抽出物の乳酸菌発酵物を含有した乳液は、有意にシミ、ソバカスを改善し、肌の色も白く改善することが確認できた。

## 【0157】（試験6）使用効果試験

本発明の美肌化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストはツヤ・張りのない肌で悩む人、30～50歳の各10名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量を

顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。尚、対照には、乳液から本発明の各植物抽出物を除いたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚の異常を訴えた者はなかった。

## 【0158】「皮膚感触改善効果」

有 効：肌のツヤ・張りが増した。

やや有効：肌のツヤ・張りがやや増した。

無 効：使用前と変化なし。  
【 0 1 5 9 】

【表3】

【試験6】皮膚感触改善試験結果			
試 料	有 効	やや有効	無 効
アズキ抽出物乳酸菌発酵物	5	4	1
インゲンマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	4	2
エンジュ抽出物乳酸菌発酵物	4	3	3
エンドウ抽出物乳酸菌発酵物	3	5	2
オランダビュ抽出物乳酸菌発酵物	5	4	1
キマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	5	0
キンキジュ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
クズ抽出物乳酸菌発酵物	6	3	1
ゲンゲ抽出物乳酸菌発酵物	6	4	0
コエビスグサ抽出物乳酸菌発酵物	5	3	2
コロハ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
シカクマメ抽出物乳酸菌発酵物	3	5	2
ジュウロクササゲ抽出物乳酸菌発酵物	4	4	2
ソラマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	3	3
タマリンド抽出物乳酸菌発酵物	3	6	1
タンキリマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
ツルマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	6	1
トウサイカチ抽出物乳酸菌発酵物	5	5	0
ナタマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	3	1
ハッシュウマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	4	2
ヒヨコマメ抽出物乳酸菌発酵物	5	5	0
ヒラマメ抽出物乳酸菌発酵物粉	5	3	2
フジマメ抽出物乳酸菌発酵物	4	4	2
ツッカセイ抽出物乳酸菌発酵物	4	5	1
シロバナルーピン抽出物乳酸菌発酵物	6	2	2
対 照	0	1	9

【 0 1 6 0 】（試験結果）表3の通り、本発明のマメ科植物抽出物の乳酸菌発酵物を含有した乳液は、肌のツヤ・張りが増すことが確認された。

【 0 1 6 1 】

【発明の効果】本発明による化粧料組成物は、その必須

成分であるマメ科植物抽出物の乳酸菌類発酵物によるチロシナーゼ活性抑制効果により、美白効果を有すること。そして、肌のシミ、ソバカスを改善、肌の色を白く改善すること。又、肌にツヤ・張りも与えることができ、人・動物に対しても安全なものである。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA031 AA032 AA082 AA111  
AA112 AA122 AB152 AB212  
AB232 AB442 AC022 AC072  
AC102 AC122 AC182 AC242  
AC422 AC442 AC472 AC482  
AC522 AD092 AD212 AD322  
AD512 AD532 AD642 AD662  
CC02 CC04 CC05 CC06 CC07  
CC19 CC23 CC25 CC32 CC33  
CC37 CC38 CC39 DD31 DD33  
EE12 EE16